

リレー講義 「世界の中の日本—他者理解」

全学科 1・2年次 選択 後期 2単位 水曜日5限
 コーディネーター 大野 瀬津子

1. 概要

価値観が多様化し国家間の流動性が増しつつある現代の国際社会において、私たち日本人が、外国文化や外国語という「他者」を理解することの必要性はますます高まっている。「他者」を理解することとは、すなわち、日本という「自己」とその外部の「他者」との間に存在する類似性と差異との両方を認識し、受容することでもある。また、「他者」を理解する上で、日本という「自己」とその外部の「他者」が結んできた関係性を見る視点は欠かせない。したがって本講義では、他者理解の第一歩として、主に、以下のアプローチを試みる。

1. 世界各国と日本を比較し、その類似性と差異を考察する。
2. 世界各国と日本が歴史的に結んできた関係性を考察する。

なお、本講義では、言語学、政治学、経済学、哲学、文学、社会学、美術史等、複数の学問領域を取り上げ、多角的な「他者理解」を目指したい。

2. キーワード

世界、日本、他者理解

3. 到達目標

日本という国民国家にとっての「他者」について理解を深め、日本を「他者」との関連性のなかで捉えられるようになる。

4. 授業計画

- ①10/4 ガイダンス: 世界の中の日本 他者理解 (大野)
- ②10/11 <他者>は<理解>できない (中村)
- ③10/18 社会と文化の多次元空間における日本の位置
(井上)
- ④10/25 世界の諸言語と日本語の起源 (村田)
- ⑤11/1 発話行為の中での日本語・英語の談話マーカー
(田吹)
- ⑥11/8 A Simple Comparison: Japan and Other Countries
(Long)
- ⑦11/15 Some Major Figures in Anglo-Japanese Relations
(Ruxton)
- ⑧11/29 イラン道路事情 (西村※)
- ⑨12/6 トーマス・マンの「ヨーロッパの中のドイツ」とい
う思想 (今井)
- ⑩12/13 沖縄とは何かをめぐる思想 伊波普猷と目取真俊
(太田※)
- ⑪12/20 アジアの美術に出会うために大切なこと (後小路※)
- ⑫1/10 日本の外交 (八丁)
- ⑬1/17 世界経済と日本 日米の経済政策を中心に (李)
- ⑭1/24 まとめ

※は学外非常勤講師

5. 評価方法・基準

②③から1本、④⑤から1本、⑥⑦から1本、⑧⑩⑪から1本、⑨⑫⑬から1本で計5本のレポート全てが合格点(60%)に達していることを合格条件とする。レポートの内容と分量、締め切り日時については各講義中に指示があるが、原則として講義終了の2週間後を提出期限とする。

6. 履修上の注意

最初のガイダンスで説明する。履修希望者は、必ず第1回の授業に出席すること。

7. 参考文献

各講義でハンドアウトを配布する。参考文献については各講義で説明する。

8. オフィスアワー

火曜日5限目

リレー講義 「美の諸相—人、もの、文化—」

全学科 1・2年次 選択 前期 2単位 水曜日5限
 コーディネーター 虹林 慶

1. 概要

古来、人間は実用性を追及する傍ら、美的要素を重要視してきた。美が実用よりも優先されてきた例も珍しくない。人間活動に必ずしも不可欠ではない美的要素がかくも問題になるのはなぜか。また、どれほどの範囲に渡って影響を与えているのだろうか。

現在、美的要素は文化、経済、社会を問わず重要度を増してきているように思える。工業デザインが経済や文化に影響し、工業それ自体の発展方向に影響を及ぼしたり、社会の熟成の過程で、市民生活の余暇的部分における美的要素が充実したりする例がそうである。

このリレー講義では美の本質を明らかにすることよりも、そのような美的要素の広がり眺めてみたい。副題の「人、もの、文化」はそれを示唆している。人それ自体の美とは何か。肉体的美、精神的美、人生の美など、様々であろう。その人が創り出す「もの」の美は、また人を魅了し、さらなる美の領域を広げ、深めていく。絵画や彫刻の美、建築様式美、デザイン商品の美、またはシステム、デザインなどの機能的美などが最終的に「文化」としての美を演出していく。

学生諸君には「ものづくり」を考える上で、あくまでも人間の部分に執拗に関わる、この美的要素を考察する機会として捉えて欲しい。この講義が一つのインスピレーションになれば幸いである。

2. キーワード

美、もの、文化、デザイン

3. 到達目標

人間の精神活動に不可避に付随する美についての意識を、「ものづくり」という面において考えることができるようになること。また、美について意識的に考察し、自分なりの美的感覚がどのような歴史的文化的背景のもとに形成されているのか、考察することができること。

4. 授業計画

- 第一回 (4月12日) イントロダクション(履修、評価方法について。概要。)
- 第二回 (4月19日)「西洋美術における人体美をめぐる」(京谷啓徳:九州大学助教授)
- 第三回 (4月26日)「浮世絵版画に見る西洋文化」(花田伸一:北九州市立美術館学芸員)
- 第四回 (5月10日)「静寂と文学的創造」(園井英秀:九州大学名誉教授)
- 第五回 (5月17日)「視線に宿る美~画像のパターンと言葉による媒介」(仲間浩一:本学助教授)
- 第六回 (5月24日)「カーデザインからみた工業製品の美しさとは」(石井明:九州大学教授)
- 第七回 (5月31日)「現代において<美>の概念は成立しうるか」(中村雅之:本学助教授)
- 第八回 (6月7日)「美の観照—自然美と藝術美—」(錦織亮介:北九州市立大学教授)
- 第九回 (6月14日)「ワイン文化とことば」(村田忠男:本学教授)
- 第十回 (6月21日)「立原正秋と詩人ハイネ」(藤澤正明:本学教授)
- 第十一回 (6月28日)「美的洗練と古典語—ドイツ教養思想の背景をなす人間の美的教育—」(今井敦:本学講師)
- 第十二回 (7月5日)「美の制度空間と下位文化—ルネサンス、アール・ヌーボー、ファッションをてがかりに」(井上寛:本学教授)
- 第十三回 (7月12日)「庭と植物のヨーロッパ史—自然美の再生をめぐる—」(水井万里子:本学助教授)

第十四回（7月19日）まとめ

5. 評価方法・基準

第二回～第八回の講義の中から最低4つ以上、第九回～第十三回の講義から最低3つ以上、合計最低7つ以上のレポートを提出する。合計7つ以上のレポートが60パーセントに達していることを合格条件とする。（合格レポートが多数の場合、高得点のものから7つを選び、総合評価する。）レポートの詳細は各時間に指示される。原則として一週間後をレポート締め切りとする。

6. 履修上の注意

第一回目で説明する。

7. 教科書・参考書

各講義で説明する。

8. オフィスアワー等

全ての相談等は、コーディネーターのオフィスアワーに行うこと。

月曜4限（14:30～16:00）共通講座棟3F（S302）内線3444